

# 令和5年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（事業推進市町等対象） 開催報告

- 1 **趣旨** 将来を担う子供たちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により地域学校協働活動が推進されることが期待されている。コミュニティ・スクールの導入も広がりを見せる近年、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが一体となった推進方策についての理解を深め、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、一層の推進を狙い、対象者への研修会を開催する。
- 2 **主催** 滋賀県教育委員会
- 3 **対象** (1) コミュニティ・スクール、地域学校協働活動をすでに導入している（導入2年目以上）市町担当者、および市町立校園関係者  
(2) 学校運営協議会 関係者  
(3) 地域学校協働活動 関係者（推進員・地域コーディネーターなど）  
(4) 県および市町の社会教育委員  
(5) 教職員
- 4 **日時** 令和5年10月12日（木） 13:30～16:30
- 5 **会場** 滋賀県庁新館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号）  
※対面での参加を基本とするが、オンライン参加も可。
- 6 **内容** パネルディスカッション（参加型）  
テーマ『『ともに考える』～コミュニティ・スクールの未来像～』  
・パネリスト（3名）：大谷 裕美子 氏（文部科学省総合計画政策室CSマイスター  
大阪府・奈良県社会教育委員  
河内長野市立美加の台中学校区  
ゆめ☆まなびネット代表コーディネーター）  
関川 雅之 氏（竜王町地域学校協働本部統括マネージャー）  
小柳 真一郎 氏（近江八幡市立八幡中学校 主幹教諭）  
・助言・総括：大谷 裕美子 氏
- 7 **参加者数** 88名（来場45名、オンライン43名）

## 8 研修会の概要

### ①パネルディスカッション1の概要

事業を推進していく上での課題や悩み、困っていることについて事前に参加者にアンケートを実施した（Google フォームを利用）。アンケート結果で多かった「働き方改革」、「一体的推進」、「人材確保」について3名のパネリストから話題提供をしてもらい、ディスカッションを行った。

「働き方改革」について小柳氏は、様々な教育活動に地域の方が参画されることが「働き方改革」につながると八幡中学校での実践事例を紹介された。人材確保のために、地域・行政・企業とリンクし、「まちコイン」を利用していることや課題について教育現場からの視点で語っていただいた。

「一体的推進」について関川氏は、学校運営協議会と地域学校協働本部をつなぐ統括マネージャーの立場から竜王町の実践事例を紹介された。学校運営協議会と地域学校協働本部が「共通する目標」を持ち、学校が行うこと・地域が行うこと・CSが行うことのすみわけが重要であると語っていただいた。

「人材確保」については、大谷氏は、地域の方が学校に入っていくやすいように、楽しいことから始める「ボランティア活動のハードルを低くする」ことについて、実践事例を紹介された。

地域の方の参画には、学校運営協議会を中心に、学習課題の解決のために必要な方々に依頼することが重要であると語っていただいた。



### ②パネルディスカッション2の概要

パネルディスカッション1を聞いた参加者に「学びのキーワード」についてのアンケートを実施した（Google フォームを利用）。回答を集約し、「納得したこと」、「気になったこと」、「わからないこと」、「もっと知りたいこと」について、AI テキストマイニングで提示し、「わからないこと」を中心にパネリストがディスカッションを展開した。大谷氏は、「ボランティアの選定の方法」について学校・子ども・教員の安心安全を守るために、適材適所にコーディネートしていくこと、小柳氏は、学校をよくしていくための熟議に地域の方が参加されている「八中サミット」を紹介された。

また、ICT機器を活用し参加者からリアルタイムで質問を受け付け、「ボランティアの方の固定化・高齢化」の質問に対して、関川氏から「推進員を新規で2人増やした。関わってもらった方には、子どもたちからのお礼状（暑中見舞いなど）を渡し、参加者に活動に関わった意義を感じてもらっている。」との取組の紹介があった。



最後に「持続可能な取組にしていく」ために、三者それぞれのお立場から「人が変わっても大事にしていくことを引き継いでいくこと」、「コミュニティ・スクールの活動そのものが持続可能な取組であること」、「地域連携担当者を複数にし、学校内で引き継ぎが円滑に行われること」などを語っていただいた。

総括・助言として大谷氏から「一体的推進」について自転車の図を使って、わかりやすく説明いただいた。また一体的推進を進めていく上での学校運営協議会の重要性、人材発掘のスリーステップ「参加・手伝う・企画」、地域の方が参画したいと思う「しかけ・きっかけ・声かけ」（3つのかけ算）について実践事例をもとにわかりやすく御教授いただいた。



## 9 参加者のアンケートより

- ・学校、子どもたちを知ってもらうために、もっと地域の方々に学校へ来てもらい、そこから一緒にできることを考え、目標を共有し、どんどん広がっていければと思う。何かをしてもらうではなく、まず学校に来てもらう、関心を向けてもらうことが大切だと感じた。
- ・コーディネーターの役割が大きいと改めて感じた。自転車の図もよくわかった。持続可能な活動にするための考え方、ポイントもわかりよかった。
- ・人材確保ということが一番の悩みであったが、パネリストの方の話を聞く中で、そのために学校運営協議会があるということを知り、納得し安心した。委員の方々は力強い味方だと思って、ともに目標に向かって進んでいきたい。
- ・学校と地域が連携し、持続した取組のためにできることを考えていきたい。
- ・地域学校協働活動の有様は、それぞれ違うと思うが課題については共通する部分が多いと感じた。学校、家庭、地域が目標を共有して進めることが「一体的」ということは大切だと感じた。
- ・これからも今までの場所にとどまることなく、新しいことにどんどんチャレンジしていきたいと思う。
- ・地域によって違いはあるが、今日いただいたアイデアを参考にして、少しずつ自分たちに合ったできそうなことから取り組んでいくしかないと思った。
- ・ハードルは低くしているつもりだが、それにプラスして人材の適材適所の配置や安心安全も大切であると改めて気付くことができた。